

平成 29 年 5 月 31 放送

乳房検査について



JA とりで総合医療センター
放射線部 加藤木友恵

司会者：最近、乳癌を患っているという有名人のニュースをよく目にしますが、乳癌になる人の数は増加しているのですか？

加藤木：はい、そうですね。テレビなどで時々目にしますね。残念ながら、乳癌を患う人・乳癌で亡くなる方は年々増加しています。2012 年は年間約 7 万 4000 人程の方が乳癌と診断されたそうです。これは日本女性の約 12 人に 1 人が乳癌を患っていることとなります。また、乳癌で死亡する方も多く、2014 年は年間約 1 万 3000 人程の方が亡くなられたそうです。乳癌は、30～64 歳女性の癌死亡原因のトップになっています。

司会者：乳癌になる原因はあるのでしょうか？

加藤木：乳癌は他の癌と同じ、細胞の遺伝子異常の蓄積によって発生することは分かっていますが、乳癌特有の原因は、まだ解明されていません。しかし、乳癌にかかるリスクについてはいくつか挙げられています。例えば、初潮が早く閉経が遅い、出産経験がない、授乳歴がない、初産が 30 歳以上である、家族に乳癌になった人がいる、閉経後の肥満などです。

司会者：もし腫瘍が見つかったとしたら、それはすべて癌なのでしょうか？

加藤木：いいえ、すべての腫瘍が癌というわけではありません。腫瘍は良性と悪性に区別されます。腫瘍の 7～8 割は良性の腫瘍です。分泌液が袋状になった嚢胞や大小様々でクリツとした形の線維腺腫などは、良性の腫瘍に分類されます。悪性の腫瘍の特徴は、乳房の皮膚にひきつれやくぼみができたり、乳頭から分泌物がでたり、ただれや変形などがあげられます。「乳房が痛いから癌かしら」と、よく心配される方もいますが、乳腺症を合併した特殊なタイプの乳癌を除いて、痛みがないということが多いです。

司会者：どうすれば、乳癌から命を守ることができますか？

加藤木：はい、早期発見だと思います。自宅でできる毎月のセルフチェックが大事だと言われています。ただ、乳腺組織の中にある小さなしこりを自分で見つけることはかなり難しいかもしれません。そのためには、専門の装置を使った検査が必要だと思います。乳癌になってしまうと、乳房を全部切除しなければならないと思う方もおいでになるかもしれませんが、しこりがまだ小さい段階で発見できれば、部分的な切除だけですむ事もあります。早期発見・早期治療がその後の人生を変えるといっても過言ではないと思います。

司会者：乳房の検査にはどのようなものがありますか？

加藤木：はい、乳房の検査には主にマンモグラフィ検査と超音波検査があります。他にも CT や MRI といった検査もありますが、これらは癌の広がりや転移の有無を調べる際に使用されます。早期発見を目的とした検査であれば、マンモグラフィと超音波の検査がよいかと思います。

司会者：では、そのマンモグラフィと超音波検査というのはどんな検査なのですか？

加藤木：はい、まずマンモグラフィについてお話しします。マンモグラフィとは乳房専用のレントゲン検査のことです。圧迫板という板で乳房をはさんで、薄く伸ばして上下左右から撮影します。乳房内の X 線吸収差を利用して画像を診断するので、極力薄く伸ばしてから撮影します。薄くすればするほど詳しくわかりますし、被ばく線量も低く抑えられるので、多少痛みを伴いますが、できる限り圧迫してから撮影をします。

次に、超音波検査についてお話しします。超音波検査はエコー検査とも呼ばれています。乳房に専用のゼリーを塗ってプローブという器具でなぞりながら検査します。超音波を乳房にあて、乳房からかえってくる反射の様子を画像化したものを診断していきます。

司会者：マンモグラフィ検査と超音波検査の特徴は何ですか？

加藤木：はい、マンモグラフィは乳癌の特徴的な所見のひとつである石灰化の描出に優れています。数ミリの小さな石灰化も描出することができます。しかし、一方マンモグラフィは乳腺と腫瘍のどちらも白く写るので、乳腺の濃度が高い方は乳腺と腫瘍の区別が難しい場合があります。また、妊娠中・授乳中の方、豊胸術後の方、ペースメーカーやシャントの入っている方は、事前にマンモグラフィの検査を受けることができるか確認が必要になります。

次に超音波検査です。超音波検査は腫瘍の描出に優れています。腫瘍の内部の性状を見ることができます。超音波検査は放射線を使わず、圧迫もしないので、先程お話ししたマンモグラフィの検査を受けることができるか事前に確認が必要な方でも、安心して検査を受けることができます。マンモグラフィは静止面で後から何度も見直すことができますが、超音波検査は動画での評価になるため、担当する医師や技師の経験と技術により多少結果が異なることがあります。

司会者：どちらの検査を受ければいいのでしょうか？

加藤木：はい、それぞれの検査によって特徴が違うので、どちらを受ければよいとは言えません。検診で有用性が証明されているのはマンモグラフィですが、マンモグラフィでわかりにくい腫瘍を超音波で見つけることができることもあります。マンモグラフィと超音波検査を併用した方がより精度の高い診断をすることができると思います。また、個人によってもメリット・デメリットが違ってきますので、事前によく相談し、自分に合った検査をしてください。

司会者：乳房の検査は何歳までした方がいいでしょうか？

加藤木：はい。20代の方から、80代・90代の方までどの年齢の方でも乳癌になる可能性はあります。若いからまだ大丈夫とか、高齢になったからもう大丈夫と
思っておいでの方もいらっしゃるかもしれませんが、乳房の検査に年齢制限
はありません。

司会者：最後にこれから検査を受けようと考えている方に一言お願いします。

加藤木：はい。特に初めて検査を受ける方にとっては、乳房の検査は抵抗があるか
もしれません。気になることや不安なことがたくさんあると思います。どんな
些細なことでも構いませんので、いつでも相談して欲しいと思います。1人
でも多くの方に安心して検査を受けていただけるように、私たちも努力して
いきたいと思っています。